

案

好循環プロジェクト

第6次総合計画基本構想で定める「まちづくりの基本方向」における「まちづくりの好循環」の加速化を図ることで、「将来のうつのみや像（都市像）」の実現を目指し、特に効果が高い先導的な取組や複数の分野の連携が不可欠な横断的な取組、他の分野への波及効果が高い取組などを「好循環プロジェクト」としてまとめています。

Project. ①

輝く人の和「NCCが支える共生社会創出」プロジェクト

Project. ②

つながるまちの環「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクト

Project. ③

魅力と夢の輪「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクト

Project. 1

輝く人の和「NCCが支える共生社会創出」プロジェクト

取組のねらい	<p>高齢者・障がい者・子どもをはじめ、生活困窮者や外国人住民などすべての人々が、超高齢社会においても1人ひとりの暮らしと生きがいを、ともに創り、高め合う社会の実現を図るため、地域包括ケアシステムの深化や対象者ごとの福祉サービスの一体化を進めながら、宇都宮市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」(NCC)の形成に向けた各種施策との融合や、その都市構造の強みを活かし、快適にアクセスできる移動環境を形成することで、誰もが安心して快適に暮らせる地域を構築し、宇都宮の特色を活かした「地域共生社会」を創出する。</p>
背景	<ul style="list-style-type: none"> ・ 超高齢社会の到来により、支える側の不足が懸念されるが、平均寿命の延びや技術の進展により、担い手としての高齢者の活躍が期待される。 ・ 2025年(平成37年)には団塊の世代が後期高齢者となり、2050年(平成62年)には第2次ベビーブーム世代が後期高齢者となる。 ・ LRTを軸としたバス路線の再編や地域内交通の拡充、さらには、各公共交通間の乗り継ぎ利便性向上の検討を進めている。 ・ NCCの具現化を図るための立地適正化計画等に基づき、拠点への都市機能や居住の誘導に向けた具体的な取組を進めている。 ・ 生活困窮者への対応、とりわけ、子どもの貧困が社会問題化しており、貧困の連鎖解消の必要である。

【NCCが支える共生社会の創出に向けて】

取組テーマ

【地域包括ケアシステムの推進】

今後、高齢者が一層増加することを踏まえ、NCCの形成など宇都宮市の特性を活かし、安心して住み続けられるまちの実現に向けて、介護保険サービスや認知症対策などの充実を図りながら、地域における療養支援の体制の整備を進め、併せて拠点となる地域への都市機能の集積や居住の誘導を行う。

【貧困の連鎖解消】

近年、貧困の問題が顕在化する中、市民が貧困に陥ることがなく、また、貧困の状態を解消できるよう、宇都宮市の貧困の実態把握に努め、貧困が世代をわたって連鎖しないよう学習支援や経済支援、就労支援などの多様な対策を講じる。

【交通弱者が安心して移動できる社会づくり】

自動車に頼らずに生活できる都市の基盤を確立し、誰もが行きたいところに移動できるまちの実現を目指すため、高齢者や障がい者、子どもなどの交通弱者に対し、外出の支援や公共交通の利便性向上を図る。

分野

子育て・教育

健康・福祉・医療

日常生活支援総合事業の推進

認知症対策の推進

☆地域療養支援体制の整備

生活困窮者に対する就労準備支援

学習支援事業の充実

奨学金制度の充実

●LRT整備に合わせた通学区域のさらなる弾力化の検討

ひとり親家庭への支援(手当)

高齢者の外出支援

☆高齢者の免許返納事業

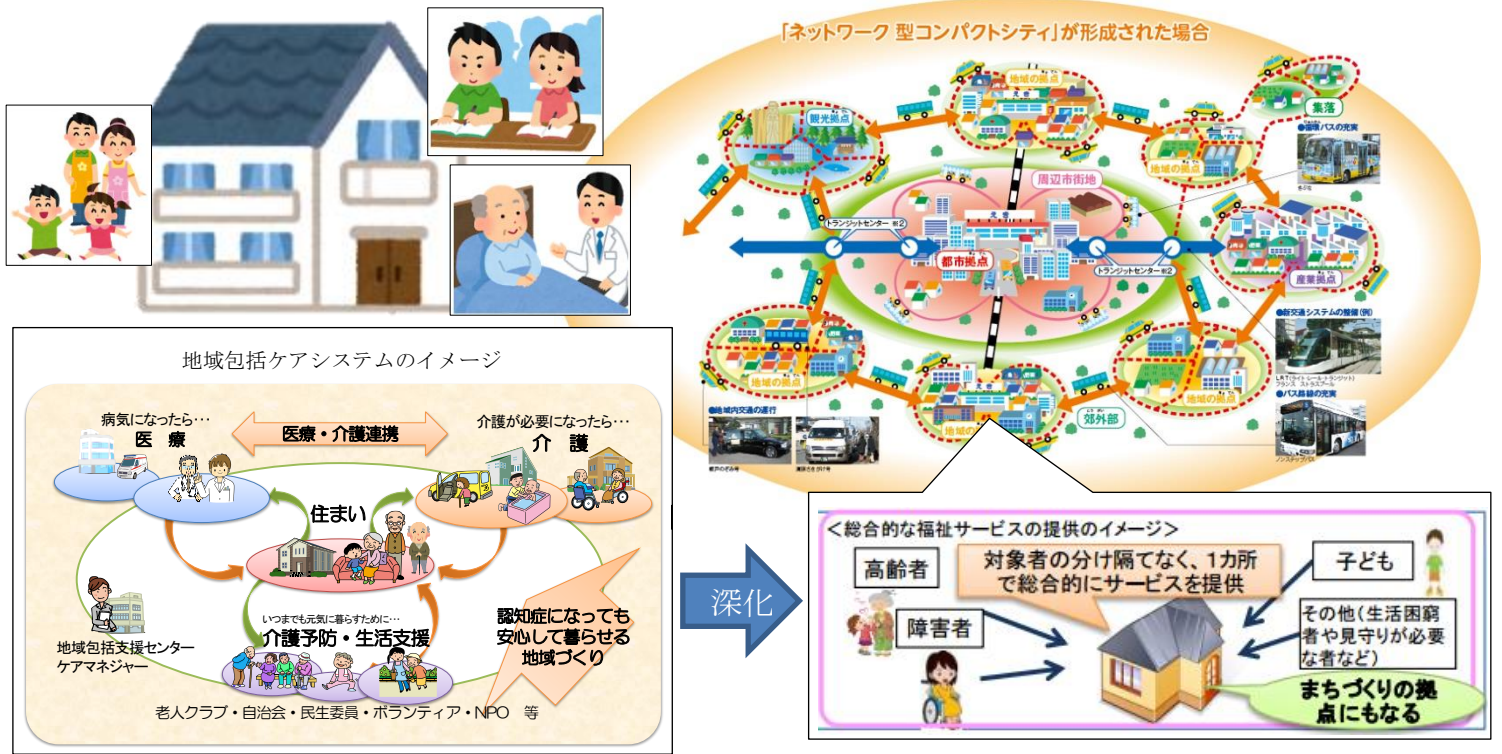
障がい者の外出支援

公共交通に関する啓発モビリティマネジメント

凡例

実施中・着手済み(今後、拡充する取組を含む)

《「NCCが支える共生社会創出」プロジェクトのイメージ図》



※ 厚労働省及び地域包括ケア研究会より画像引用

別 計 画 (政 策 分 野)

安心 ・ 協働 ・ 共生	魅力 ・ 交流 ・ 文化	産業 ・ 環境	都市空間 ・ 交通
			☆公共交通沿線への居住誘導
		●就労希望高齢者への対応	拠点の都市機能の集積 (医療、福祉、日常生活等の施設)
			空き家の利活用
		就労支援に係る相談の充実	
		若年者雇用マッチングの推進	
		ひとり親家庭への支援(就労)	
			☆LRTの東側整備
			●LRTの西側整備
			公共交通の乗り継ぎ円滑化
			☆交通ICカードの導入
☆LRTに関する交通安全教育の実施			

☆:5年以内に事業の具体化(又は完了)を図るもの

●:具体化(又は完了)に時間を要するもの

Project. ②

つながるまちの環「ICTで暮らしもまちも元気」プロジェクト

取組のねらい	近年、ICTの進展が急激に進んでおり、様々な経済活動等がデータ化され、インターネットを通じて集約・分析し、あらゆる分野で活用することを通し、新たな経済価値の創出と市民サービスの向上を図るため、今後、宇都宮市が生産年齢人口の減少下においても、ICTの恩恵を受ける環境を構築することで、AI、IoT、ドローン等の技術がヒトやモノの活動をサポートし、生産性の向上による産業の発展や、まちの活力を維持する担い手不足への対応、様々な分野における市民の身近な暮らしの利便性向上などを図っていく。
背景	<ul style="list-style-type: none"> ICTの劇的な進展により、生産年齢人口の減少下においても、労働力不足を補うAI、IoT等による生産性の向上が期待される。 ドローンなどの新技術は実証実験を通じた社会への実装が進んでおり、多方面での活用が期待される。 廉価で汎用性の高い新たな通信規格の出現により、モノのインターネット化の普及しやすい環境が整えられつつある。 AI技術の発展が進み、2020年頃には、ロボットや自動車などは熟練した動きと自動化が可能となる見込みであり、今後、物流や農業、製造業など、様々な産業への活用が期待される。

【ICTによるヒト・モノの活性化に向けて】

取組テーマ

【ICTの恩恵を享受できる環境の構築】

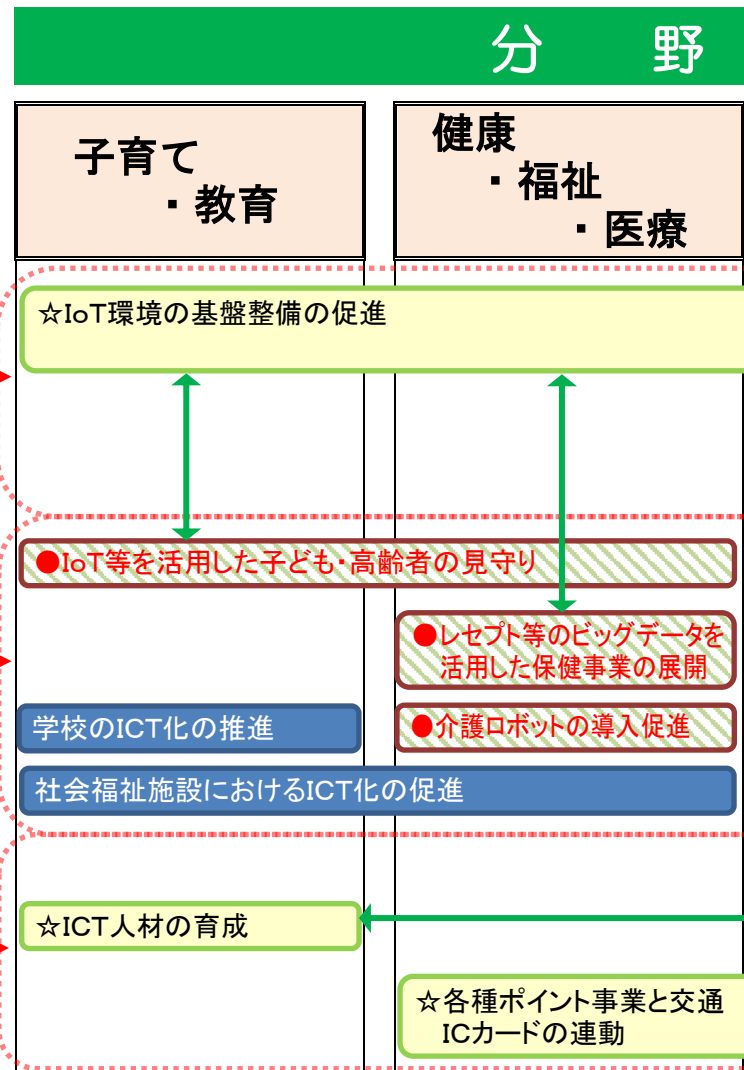
近年のICTの劇的な進化は、市民生活や企業活動に大きな変化をもたらすものであり、生産年齢人口の減少下においても、ICTを活用することにより、ヒトの行動を補完し、あらゆる分野における利便性・生産性を最大限高めるため、様々なヒトとモノがつながるよう、IoT環境の構築などを促進するとともに、効果的・効率的な都市経営を推進するため、インフラの保守点検等の分野においてもICTの利活用を図る。

【市民の身近な生活の利便性向上】

市民が安心して快適に暮らせるよう、位置情報等を利用した子どもや高齢者の見守り活動や、超高齢社会における担い手不足への対応としてAI、ロボット等の導入、また、道路、河川等の安全確認など、ICTを活用した安全で安心な環境づくりと市民に身近な生活の利便性向上を図っていく。

【新たなサービス創出を通じた産業の振興】

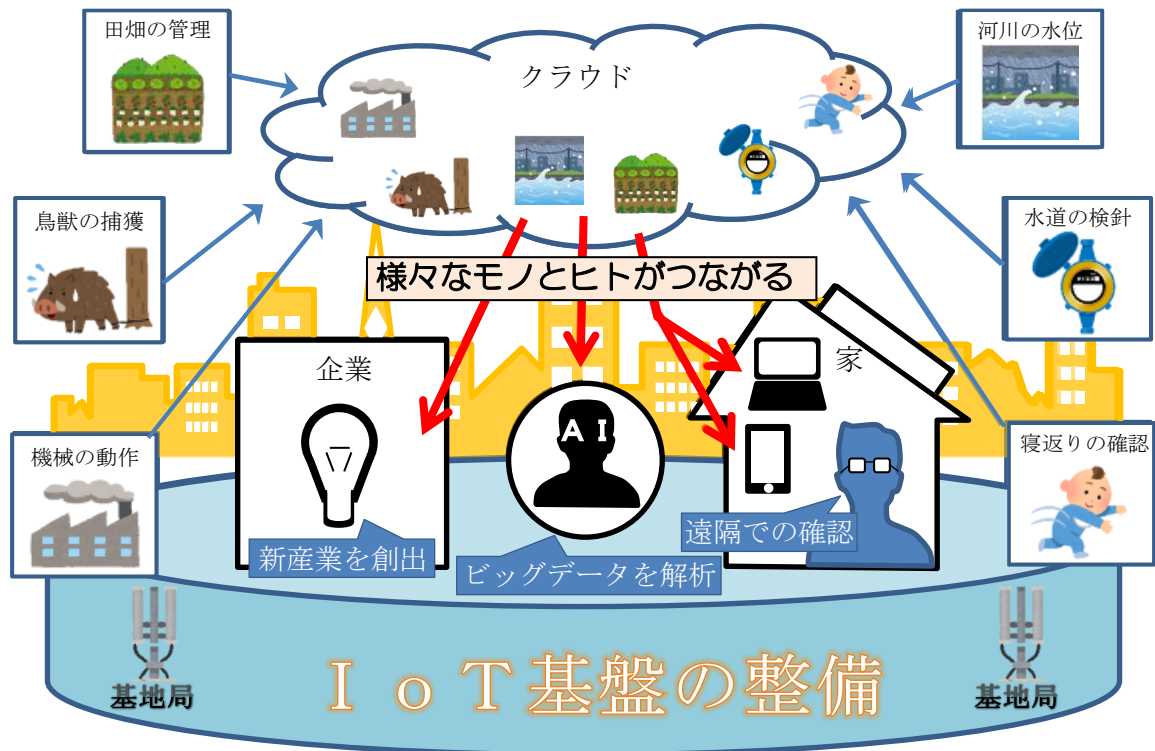
ICTの進展によりめまぐるしく経済活動の変化が進む中、その流れに本市も乗り遅れず、まちの活力を維持・向上させるため、ICTを活用できる人材の育成を行いながら、先行して実施している農業をはじめ、中小企業をはじめとした物流や製造業、小売・卸売、観光など様々な分野におけるICTの活用促進を図る。



凡例

実施中・着手済み(今後、拡充する取組を含む)

《「ICTでまちを変える」プロジェクトのイメージ図》



別 計 画 (政 策 分 野)

安心 ・ 協働 ・ 共生	魅力 ・ 交流 ・ 文化	産業 ・ 環境	都市空間 ・ 交通
<p>☆ICTを活用した災害対応</p> <p>☆コールセンターにおけるAIの活用</p> <p>SNSを活用した情報発信</p>	<p>☆ドローンを活用したPV撮影等の魅力発信</p>	<p>IoTを活用した農業の推進</p> <p>中小企業のICT化促進支援</p> <p>☆産業分野のドローン活用</p>	<p>☆IoT, ドローン等の活用によるインフラの保守点検等</p> <p>● 駐車場、駐輪場の管理・保全</p> <p>☆交通ICカードの導入</p>

☆: 5年以内に事業の具体化(又は完了)を図るもの

●: 具体化(又は完了)に時間を要するもの

Project. ③

魅力と夢の輪「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクト

取組のねらい	<p>宇都宮市は、自然災害が少なく、豊かな自然や優れた立地特性のもと、バランスの取れた産業構造や、独自性のある多様な地域資源を有しており、多くの魅力と高いポテンシャルを備えている強みを活かし、少子超高齢社会の中にあっても、宇都宮市が多くの人や企業に選ばれ、100年先も高い魅力を有するまちであり続けるため、少子化をはじめとする人口減少の抑制に向けて、宇都宮にずっと住み続けたい、訪れてみたい、将来住んでみたい、と思ってくれる人や行動してくれる人の増加を目指し、「宇都宮ブランド」の発掘・創造・発信を推進する。</p>
背景	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏に対し、人口は転出超過の状態にあり、特に若い世代の転出が目立つため、その対策として、都市の魅力を高め、UJIターンなどによる移住・定住の促進を進めている。 「大谷」をはじめとする地域資源のさらなる活用や国内外に認知されているジャパンカップサイクルロードレースなど、宇都宮市の強みを活かした取組が進められている。 宇都宮市の人口構造の特徴として、20～49歳において男性より女性が10,000人程度少ない現状や、20～30歳代の女性は今後10年以内に10,000人程度減少する見込みで、今後一層の少子化が懸念されているなど、これらの状態を見据えた取組が必要である。

【宇都宮ブランドの発掘・創造・発信に向けて】

取組テーマ

【「大谷」、「LRT」、「自転車のまち」など地域資源のフル活用】

本格的な人口減少社会を迎えるに当たり、宇都宮市が持続可能な都市経営を進めるためには、人や企業に選ばれ、市内における様々な活動の維持・活性化が必要であることから、本市特有の地域資源である「大谷」や「LRT」などをフル活用したまちづくりを進める。

【宇都宮暮らしの魅力向上・発信による移住・定住の促進】

東京圏に対して若年層を中心とした転出超過の状況にある中、災害の少なさ・災害に対する強さや日常生活の利便性の高さなどの宇都宮市の強みを積極的に市内外に発信することで、宇都宮市への移住・定住の促進を図る。

【女性が活躍できる社会の構築】

宇都宮市の人口構造の特徴として、男女比で女性が少ないことや今後少子化が進むことへの対策として、女性が活躍できる社会の構築を目指し、女性が働きやすくなるような意識の醸成やサービスの提供、また、働きやすい企業等の誘致による環境整備を図る。

分野

子育て・教育

☆地域の魅力を学ぶ機会の創出（郷土愛の醸成）

健康・福祉・医療

地域ごとの名所を巡るウォーキングマップの活用

救急医療体制の維持・構築

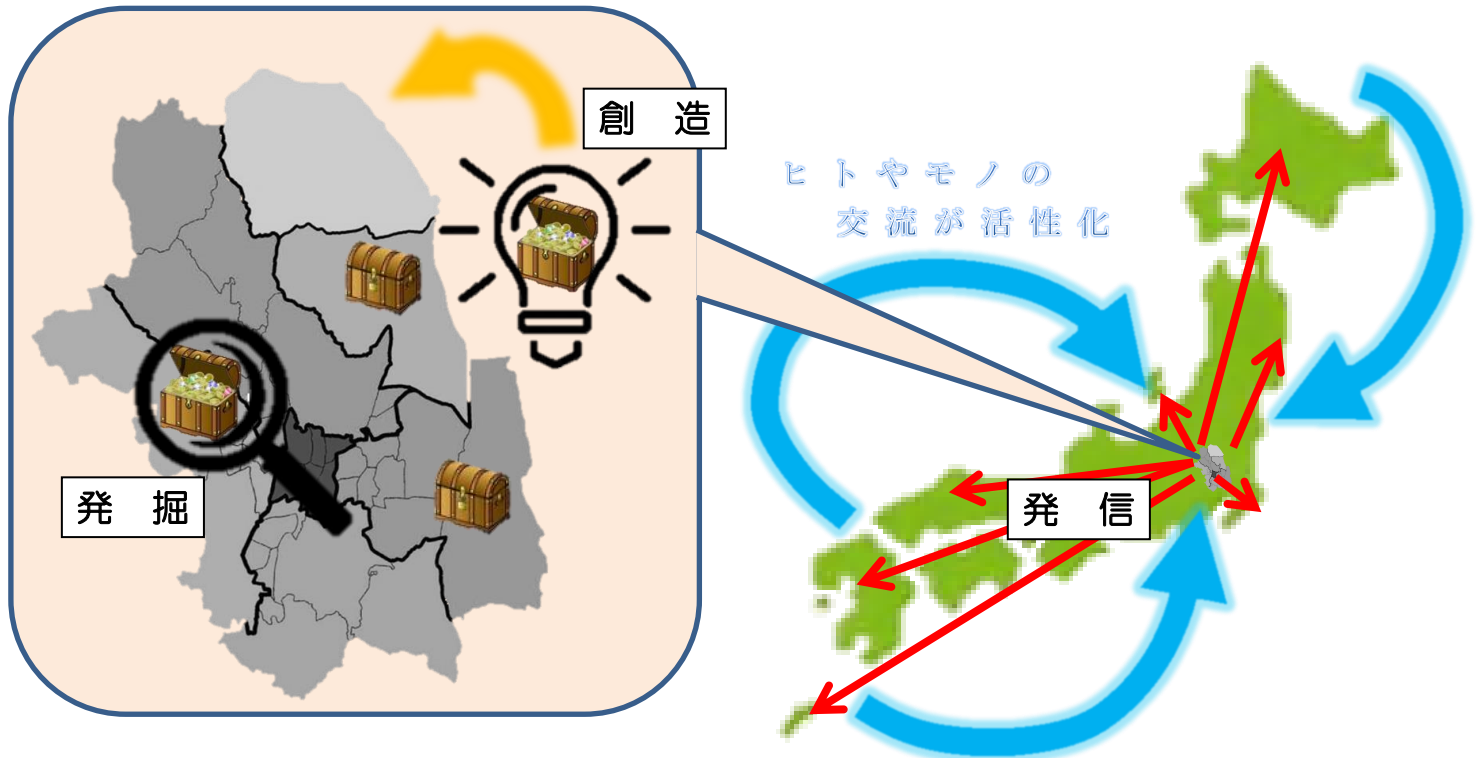
子育てしやすい環境整備の促進

●ダブルケアに対する支援

凡例

実施中・着手済み（今後、拡充する取組を含む）

《「ブランド発掘・創造・発信」プロジェクトのイメージ図》



別 計 画 (政 策 分 野)

安心 ・ 協働 ・ 共生	魅力 ・ 交流 ・ 文化	産業 ・ 環境	都市空間 ・ 交通
<p>外国人との交流拡大</p> <p>プロスポーツチームと連携した自治会への加入促進</p> <p>災害に強いまちづくりの推進</p> <p>男女共同参画の推進</p> <p>ワークライフバランスの支援</p>	<p>経済・観光分野における広域連携の推進</p> <p>サイクルスポーツの振興</p> <p>大谷夏いちごの販路拡大</p> <p>大谷石産業の観光活用</p> <p>☆大谷周遊拠点の創出</p> <p>インバウンド観光の推進</p> <p>☆LRT とスポーツ・文化施設等の地域資源を活用した新たなツーリズムの創出</p> <p>●トランジットセンター等におけるまちなか情報の発信</p> <p>☆お試し居住の推進</p>	<p>大谷石採取場跡地の冷熱エネルギーの活用</p> <p>☆LRT 沿線の産業振興</p> <p>●LRT 沿線における低炭素化の促進</p> <p>UJIターンの促進</p> <p>農コン事業</p> <p>☆女性が働きやすい環境の創出(オフィス系企業の立地促進等)</p>	<p>自転車利用環境の整備</p> <p>大谷石を活かした景観形成</p> <p>空き家の利活用</p> <p>住宅取得の補助</p> <p>若年夫婦・子育て世帯家賃補助</p>

☆: 5年以内に事業の具体化(又は完了)を図るもの

●: 具体化(又は完了)に時間を要するもの